

中央家畜衛生通信

第95号 令和3年5月発行 岩手県中央家畜保健衛生所・岩手県中央家畜衛生協議会

目次

- ・巻頭言 …… 1
- ・国内のヨーネ病の発生状況について …… 2
- ・飼養衛生管理マニュアルの作成・活用をお願いします！ …… 3
- ・牛伝染性リンパ腫の発生状況について …… 4
- ・令和3年度中央家畜保健衛生所組織体制及び担当業務 …… 5
- ・令和3年度予防注射接種料金のお知らせ …… 6

巻頭言

岩手県中央家畜保健衛生所長 大窪 聡

日頃、関係各位から当所の家畜衛生対策へ特段の御理解及び御協力を賜っていますことに心から感謝します。

さて、元プロ野球の野村克也さんの「勝ちに不思議な勝ちあり、負けに不思議な負けなし」という言葉があります。今までの自分の経験を振り返ると、「成功は運が良かっただけで、失敗には必ず原因がある」ということを痛感する場面が多々あったことに気付かされます。過去の家畜衛生対策をみても、成功例、失敗例など色々な事例があります。成功例をみれば、成功した要因があり、失敗例をみれば、失敗した要因があります。ただし、成功した要因は、それを繰り返しても必ず成功するとは限らず、失敗した要因は、それを繰り返せば必ず失敗するような気がします。

家畜衛生分野における疾病発生時の疫学調査は、失敗要因を明らかにして、今後の対策に役立てようというものです。昨今の鳥インフルエンザや豚熱の疫学調査を見ると、昆虫や小動物の侵入など、必ずしも発生農家側の原因とは思えない事例もありますが、発生農家側に原因がある場合もあります。明らかな失敗要因を取り除くことで、今後の疾病発生予防につなげていただければ幸いです。

飼養衛生管理基準遵守による農場の衛生管理レベルの向上に向け、畜産農家の皆様には、日夜多大なるご苦勞をおかけしていると思います。病原体からの隔離という点では、外部環境からの遮断は最も効果的な手段です。その遮断が進めば進むほど、生産者と消費者との接点は希薄になって行きます。「安全・安心」という言葉は、農畜産物の販売では決まり文句のようになっていきます。しかし、安全や安心というものは、その過程が相手にとって目に見える所にあるというのが重要だと思われれます。国産が「安全・安心」というのは、対極にある外国産が目に見えない所にあるということに起因します。各種検査成績を通じた安全性の訴求は、見えるところで生産されたという安心感に遠く及びません。

「伝染病を発生させない」という目的も大事ですが、「生産物を高く売る」という、そもそもの目的があることも忘れてはいけません。病原体を遮断しつつも、消費者に畜産物の生産過程を知ってもらおう働きかけも今後重要になっていくと思われれます。家畜衛生対策による疾病発生予防と畜産振興がますます発展することを祈り、巻頭言とします。

国内のヨーネ病の発生状況について

大家畜課

1 ヨーネ病とは

ヨーネ病は、牛、めん羊、山羊、鹿などの反芻動物がヨーネ菌に感染して起こる病気です。世界各地で広く発生しており、家畜伝染病の中でも特に経済被害の大きい病気とされています。子牛の時期に最も感染しやすく、感染牛の糞便や乳汁に含まれるヨーネ菌を口から接種することが主な感染ルートになるほか、子宮内で胎子が感染することもあります。

通常数年に及ぶ長い潜伏期間を経て慢性的な下痢や極度の消瘦といった症状を示し、潜伏期間中であっても糞便に大量のヨーネ菌を排菌することがあります。ワクチンや治療法はなく、発症した牛は衰弱し、死に至ります。



やせ細り、水様性の下痢をするヨーネ病の発症牛。

(動物衛生研究部門 HP より)

2 国内の発生状況

下の表は平成30年度及び令和元年度の都道府県別ヨーネ病発生頭数を示しています。飼養頭数に違いがあるものの、ヨーネ病の発生頭数は都道府県によって偏りがあるのが現状です。

北海道 東北	H30	R1	関東	H30	R1	中部	H30	R1	近畿	H30	R1	中国 四国	H30	R1	九州	H30	R1
北海道	682	945	茨城	0	4	新潟	0	0	三重	0	0	鳥取	8	2	福岡	2	1
青森	1	5	栃木	7	9	富山	0	0	滋賀	3	1	島根	1	1	佐賀	0	0
岩手	11	19	群馬	6	11	石川	0	0	京都	0	0	岡山	4	0	長崎	0	1
宮城	4	4	埼玉	1	1	福井	0	0	大阪	0	0	広島	0	0	熊本	12	11
秋田	0	0	千葉	2	0	山梨	6	10	兵庫	0	0	山口	0	0	大分	0	0
山形	5	3	東京	0	0	長野	1	2	奈良	1	0	徳島	1	0	宮崎	1	0
福島	1	0	神奈川	0	0	岐阜	0	0	和歌山	0	0	香川	0	0	鹿児島	63	31
						静岡	7	1				愛媛	0	0	沖縄	0	2
						愛知	0	2				高知	1	0			

(家畜伝染病発生年報より)

3 県外導入牛検査を必ず受検しましょう

本県においては、ヨーネ病で新規摘発される牛の多くが北海道からの導入牛です。家畜保健衛生所では県外導入牛のヨーネ病検査を無料で実施しています。預託農場からの帰場牛など、県外から牛を導入した際は必ず検査を受けるようお願いします。

対 象：搾乳又は繁殖の用に供する目的で県外から導入した牛

申し込み：導入が決まり次第（最低1週間前までに）、①導入予定日、②導入頭数を家畜保健衛生所まで連絡願います。

検査材料：糞便 1～5 g

※採材は獣医師又は農協等に依頼し、当所まで送付又は持参してください。

検査料金：無料（ただし、獣医師等による採材に係る経費は自己負担となります）

飼養衛生管理マニュアルの作成・活用をお願いします！

中小家畜課

令和2年7月1日より施行された新しい飼養衛生管理基準（豚・いのしし）には、農場への病原体の侵入及び農場からの病原体の拡散を防止するための具体的な手法が示されており、その遵守は非常に重要です。国内での豚熱の発生は続いており、4月現在で67例が確認されています。直近の59～67例目はすべてワクチン接種農場での発生で、一部ではワクチン接種豚でも確認されています。ワクチン接種は疾病予防に大きな効果をもたらしますが、必ずしもすべての豚が免疫を獲得できるものではありません。従って、それ以上に、日頃の「病原体を入れない」という意識が何よりも重要です。新しい飼養衛生管理基準はその意識をより明確化し、より実効性のある対策方法を示したもので、全40項目すべてを遵守することが必要です。

また、上記、飼養衛生管理基準の中で項目3に規定されている「飼養衛生管理マニュアルの作成・活用」は令和3年4月1日より作成が義務付けられたもので、飼養衛生管理に関する作業の手順を明確にし、所有者、従業員、外部事業者等、農場に立ち入る全ての者が適切な手順で作業を実施可能にすることを目的としています。本マニュアルにより少なくとも下記10項目についての確実な遵守が求められています。右のQRコードのWEBページ内に当所が作成した本マニュアルの雛型を掲載していますので、御活用ください。



- (1) 従事者が当該農場以外で行う動物の飼養及び狩猟における禁止事項
- (2) 海外渡航時及び帰国後の注意事項
- (3) 海外からの肉製品の持込み（郵便物による持込みを含む。）に関する注意喚起
- (4) 農場内への不適切な物品の持込みの禁止
- (5) 可能な限り、工具、機材等を農場内へ持ち込まないための取組
- (6) 持ち込む工具、機材、食品等の取扱い
- (7) 猫等の愛玩動物の衛生管理区域内での飼育禁止
- (8) 野生動物の衛生管理区域内への侵入防止
- (9) 農場における防疫のための更衣
- (10) 手指、衣服、靴、物品、車両、施設等の洗浄及び消毒に関する具体的な方法、消毒薬の種類、作用時間及び乾燥時間等

牛伝染性リンパ腫の発生状況について

病性鑑定課

1 牛伝染性リンパ腫と国内の発生状況

牛伝染性リンパ腫は本病ウイルス（BLV）の感染によっておこる牛の伝染病です。

家畜伝染病予防法に規定する牛の監視伝染病であり、**全国的に増加傾向**です（令和元年次、全国 4113 頭）。ウイルスに感染しても多くの牛は長期間臨床症状を出しませんが（発症する牛は感染した牛のうちの 5% 未満）、感染した牛の体内からウイルスが排除されることはなく、生涯他の牛への感染源となります。

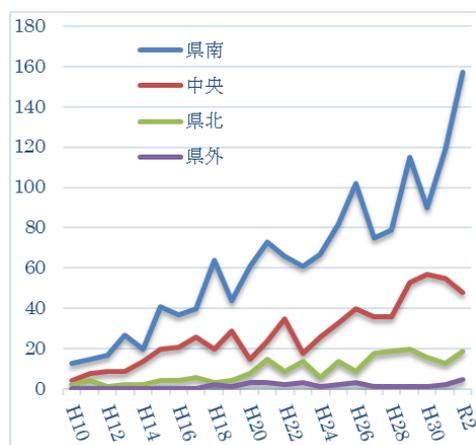
○全国の本病発生頭数の推移（H27～R1 年次）

年次	H27	H28	H29	H30	R1
発生頭数	2,869	3,125	3,453	3,859	4,113

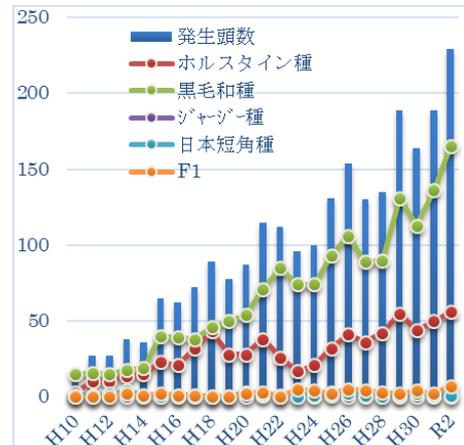
2 県内の発生状況と傾向について

令和 2 年度、県内の本病発生は 188 戸 229 頭でした。これは前年度（189 頭）の 1.2 倍に相当し、**初めて 200 頭を超え、過去最多**となりました。

と畜場での摘発頭数は 62 頭（27%）であり、昨年度の 58 頭と同程度でした。地域別の発生頭数は県南 157 頭、中央 48 頭、県北 19 頭、県外 5 頭であり、過去に発生歴のある農場での発生（150 頭）が 65.5% を占めていました。飼養頭数あたりの発生率が増加し、毎年約 75 農場で新規に発生していることから、BLV の感染拡大がうかがわれました。特に飼養期間の長い黒毛和種における増加が顕著で、県南地域は、これらの飼養頭数が多いことが増加の一要因と考えられました。



○地域別の発生頭数の推移



○品種別の発生頭数の推移

3 本病の対策

本病に有効なワクチンや治療法はありません。感染牛の血液や乳汁などの体液を介して伝播するため、農場内に感染牛がいる場合、同居牛に感染を拡大させないことが重要です。対策としては以下の方法があります。

- 吸血昆虫を介した感染の防止…感染・非感染牛の**分離飼育**、防虫資材による侵入・吸血の軽減
- 初乳を介した感染の防止…感染牛の母乳の凍結処理または加温処理を実施する
- 人を介した感染防止…注射針・直検手袋の 1 頭毎の交換、AI・除角・削蹄器具の 1 頭毎の消毒

令和3年度中央家畜保健衛生所組織体制および担当業務

広報担当

所長	大 窪 聡
次長（総括・大家畜・中小家畜担当）	小根口 徹
次長（病性鑑定担当）	本 川 正 人
大家畜課長	佐 藤 圭
中小家畜課長	宮 崎 大
技術主幹兼病性鑑定課長	浅 野 隆

大家畜課		中小家畜課			病性鑑定課	
衛生担当	防疫担当	総務・企画担当	豚・めん山羊担当	家きん・蜜蜂担当	伝染病診断担当	病態診断担当
上席獣医師 （総括） 阿部 憲章	上席獣医師 （総括） 佐々木幸治	上席獣医師 （総括） 中野 暢彦	主査獣医師 （総括） 大森さくら	主査獣医師 （総括） 鈴木 千尋	主査獣医師 （総括） 澤田 徳子	上席獣医師 （総括） 千葉 由純
主任獣医師 鈴木 和美	主任獣医師 小田中誠彰	主査(席務) 藤原 友佳	主任獣医師 吉田 恵美	主任獣医師 長山 玲子	主査獣医師 福成 和博	獣医師 竹下 愛子
主任獣医師 村松 圭以	獣医師 早川麻理子		獣医師 山岸 竜馬	主任獣医師 茂木 美和	主査獣医師 五嶋 祐介	獣医師 大竹 良祐
	獣医師 ☆竹内翔子				獣医師 市村 鋭	
宮古農林振興センター勤務 獣医師 倉澤 広樹						
○牛、馬における伝染性疾患の防疫、病性鑑定、定期報告、飼養衛生管理基準遵守指導、生産性向上対策 ○種雄牛の衛生検査 ○牛の異常産発生予察 ○牛伝染性リンパ腫伝播防止対策 ○放牧衛生 ○牛の農場 HACCP 支援 ○放射性物質に関すること		○豚、めん羊、山羊、鶏、蜜蜂における伝染性疾患の防疫、病性鑑定、定期報告、飼養衛生管理基準遵守指導、生産性向上対策 ○種雄豚の衛生検査 ○中小家畜の農場 HACCP 支援 ○流通飼料、自給飼料の安全性確保 ○動物薬事、獣医事			○家畜伝染病診断、病態診断に係る精密検査（ウイルス・細菌・病理・生化学） ○家畜伝染病の診断技術研修 ○家畜伝染病診断、病態診断に係る試験調査 OBSE 検査 ○検査の信頼性確保（GLP）に関すること	

※下線の職員は今年度転入者、☆印は新採用職員

☆新採用職員を紹介

竹内 翔子（たけうち しょうこ）

出身地：東京都 趣味：旅行

抱負：積極的に取り組むことで1日でも早く仕事に慣れ、地域に貢献していきたいと思っております。至らない点もありますが、よろしくお願いいたします。



令和3年度予防注射接種料金のお知らせ

岩手県中央家畜衛生協議会

令和3年度に岩手県中央家畜衛生協議会が取り扱うワクチンと接種料金は、以下のとおりです。お問い合わせは、岩手県中央家畜衛生協議会にお願いします。

事業区分	ワクチン	1頭1回当たり 接種料金
受託事業	牛5種混合（生）	2,120円
	牛5種混合（不活化）【ポビバックB5】	1,950円
	牛6種混合（生・不活化混合）【キャトルウィ-6】	2,400円
	牛6種混合（生・生）【カ-7ウィ-6】	2,390円
	牛アカバネ（生）	1,940円
	牛ヘモフィルス（不活化）	1,320円
	豚丹毒（生）	167円
	豚丹毒（不活化）	173円
独自事業	牛クロストリジウム5種混合（トキシイド）	1,680円
	牛下痢5種混合（不活化）	2,330円
	ティーエスプイ3	1,600円



今年度もどうぞ
よろしく
お願いいたします



そばっち



アマビエ

< お問い合わせ先 >

○岩手県中央家畜保健衛生所

電話：019-688-4111 / FAX：019-688-4012

ホームページ：http://www.pref.iwate.jp/nougyou/desaki/chuuou/index.html

または「岩手県中央家畜」で検索してください

○沿岸広域振興局農林部宮古農林振興センター

電話：0193-64-2214 / FAX：0193-64-5631

○岩手県中央家畜衛生協議会

電話・FAX：019-688-4015